

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成28年1月28日(2016.1.28)

【公表番号】特表2015-505878(P2015-505878A)

【公表日】平成27年2月26日(2015.2.26)

【年通号数】公開・登録公報2015-013

【出願番号】特願2014-546058(P2014-546058)

【国際特許分類】

C 09 J 183/06 (2006.01)

C 09 J 11/06 (2006.01)

C 09 J 7/02 (2006.01)

C 09 J 183/07 (2006.01)

C 08 G 77/50 (2006.01)

【F I】

C 09 J 183/06

C 09 J 11/06

C 09 J 7/02 Z

C 09 J 183/07

C 08 G 77/50

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年12月4日(2015.12.4)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

シリコーン感圧接着剤組成物であって、

(A)

(i)

$R^1_3SiO_{1/2}$  ("M") 単位と  $SiO_{4/2}$  ("Q") 単位とを含む樹脂であつて、ここで

それぞれの  $R^1$  が独立して1から6個の炭素原子を持つ一価の炭化水素ラジカルであり、ここで、樹脂が約70モル%から約99モル%のヒドロキシルラジカルと約1モル%から約30モル%のヒドリドラジカルとを含み、ここでモル%は樹脂のヒドロキシルラジカルとヒドリドラジカルの全モルに基づくものであり、

ここでヒドロキシルラジカルがQ単位のケイ素原子へと直接的に結合し、そしてヒドリドラジカルが  $-OSiHR^5_2$  ラジカルを介してQ単位のケイ素原子へと結合し、 $R^5$  が1から6個の炭素原子の一価の炭化水素ラジカルである、

樹脂と

(ii)

一つもしくはそれ以上のビニル官能性ポリオルガノシロキサンとを含む混合物の反応産物、ならびに

(B)ヒドロシリル化触媒

を含む、シリコーン感圧接着剤組成物。

【請求項2】

樹脂(A)(i)が、樹脂のヒドロキシルラジカルとヒドリドラジカルの全モルに基づづくものであつて、

いて約 75 モル % から約 99 モル % のヒドロキシルラジカルを含む、請求項 1 に記載の組成物。

**【請求項 3】**

樹脂 (A) (i) が、樹脂のヒドロキシルラジカルとヒドリドラジカルの全モルに基づいて約 5 モル % から約 25 モル % のヒドリドラジカルを含む、請求項 1 に記載の組成物。

**【請求項 4】**

樹脂 (A) (i) 中の M 単位対 Q 単位のモル比が約 0.6 から約 1.2 を含む、請求項 1 に記載の組成物。

**【請求項 5】**

R<sup>1</sup> がメチルである、請求項 1 に記載の組成物。

**【請求項 6】**

樹脂 (A) (i) が、R<sup>1</sup><sub>3</sub>SiO<sub>1/2</sub> ("M") 単位およびSiO<sub>4/2</sub> ("Q") 単位から主になる MQ 樹脂と、R<sup>6</sup><sub>a</sub>SiX<sub>4-a/2</sub> であるキャッピング剤とを反応させることにより調製され、

ここで、

それぞれの R<sup>1</sup> が独立して 1 から 6 個の炭素原子の一価の炭化水素ラジカルであり、

MQ 樹脂が、MQ 樹脂の全重量に基づいて約 1 重量 % から約 4 重量 % の、Q 単位のケイ素原子に結合するヒドロキシルラジカルからなり、そして MQ 樹脂がヒドリドラジカルを含まず、

それぞれの R<sup>6</sup> が独立して水素もしくは 1 から 6 個の炭素原子を持つ一価の炭化水素ラジカルであって、少なくとも一つの R<sup>6</sup> が水素であるという条件に従い、そして X が N、C 1 もしくは O であり、a が約 0.5 から約 2.0 である、

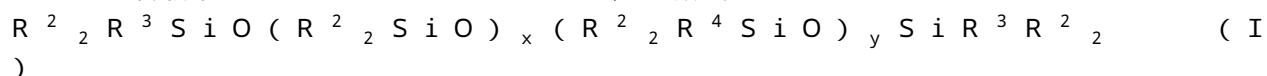
請求項 1 に記載の組成物。

**【請求項 7】**

キャッピング剤が、シラザン、ジシラザン、ポリシラザン、オルガノハイドロジエンクロロシラン、水素官能性シロキサン、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される、請求項 6 に記載の組成物。

**【請求項 8】**

ビニル官能性ポリオルガノシロキサンが、一般式：



によって表され、

ここでそれぞれの R<sup>2</sup> は独立して、1 から 10 個の炭素原子を持つアルキル基、脂環式基、もしくはアリール基であり、それぞれの R<sup>3</sup> は独立して、2 から 10 個の炭素原子を持つアルケニル基であり、それぞれの R<sup>4</sup> は R<sup>2</sup> もしくは R<sup>3</sup> のいずれかであり、そして x と y の合計は少なくとも約 520 である、請求項 1 に記載の組成物。

**【請求項 9】**

組成物がビニルエーテル、ビニルカルボキシラート、モノビニルポリシロキサン、ビニル脂環系化合物、ビニル環状オレフィン系化合物、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される反応性希釈剤をさらに含むものである、請求項 1 に記載の組成物。

**【請求項 10】**

オルガノハイドロジエンポリシロキサン、MQ 樹脂、ビニル官能性ポリオルガノシロキサンおよびそれらの組み合わせからなる群より選択される追加の成分をさらに含む、請求項 1 に記載の組成物。

**【請求項 11】**

オルガノハイドロジエンポリシロキサンが、

MD<sub>e</sub>D<sup>H</sup><sub>f</sub>M、

MD<sup>H</sup><sub>f</sub>M、

MD<sub>e</sub>D<sup>H</sup><sub>f</sub>M<sup>H</sup>、

M<sup>H</sup>D<sub>e</sub>D<sup>H</sup><sub>f</sub>M、

$M^H D_e M^H$  および

$M^H e Q_f$

からなる群より選択され、

ここで、

$M = R_3 SiO_{1/2}$ 、

$M^H = H_g R_3 - g SiO_{1/2}$ 、

$D = R R SiO_{2/2}$ 、

$D^H = R^H H SiO_{2/2}$  および

$Q = SiO_{4/2}$  であって、

ここで、 $M$ 、 $M^H$ 、 $D$  および  $D^H$  中のそれぞれの  $R$  は独立して、1から40個の炭素原子を持つ一価の炭化水素であり、そして、ここで下付文字  $g$  は1であり、かつ下付文字  $e$  および  $f$  は0もしくは正であり、そして  $e$  と  $f$  の合計は約10から約100の範囲であり、 $f$  および  $g$  の合計が2もしくはそれ以上であるという条件に従う。

請求項10に記載の組成物。

#### 【請求項12】

$R$  がメチルもしくはフェニルである、請求項11に記載の組成物。

#### 【請求項13】

$MQ$ 樹脂が  $R^1_3 SiO_{1/2}$  ("M") 単位および  $SiO_{4/2}$  ("Q") 単位から主になり、

ここで、

それぞれの  $R^1$  が独立して1から6個の炭素原子の一価の炭化水素ラジカルである、請求項10に記載の組成物。

#### 【請求項14】

$MQ$ 樹脂が  $M^{V^i} MQ$ 樹脂もしくは  $MD^{V^i} Q$ 樹脂であり、ここで  $M$  が  $R^7_3 SiO_{1/2}$  であり、 $M^{V^i}$  が  $R^8_3 SiO_{1/2}$ 、 $D^{V^i}$  が  $R^8_2 SiO_{2/2}$ 、かつ  $Q$  が  $SiO_{4/2}$  であり、ここでそれぞれの  $R^7$  が独立して1から6個の炭素原子を持つ一価の炭化水素ラジカルであり、それぞれの  $R^8$  が独立して  $R^7$ 、2から6個の炭素原子を持つアルケニルラジカル、または2から6個の炭素原子を持つアルケニルヒドロカルボノキシラジカルであって、少なくとも一つの  $R^8$  が2から6個の炭素原子を持つアルケニルラジカルもしくは2から6個の炭素原子を持つアルケニルヒドロカルボノキシラジカルであるという条件である、請求項10に記載の組成物。

#### 【請求項15】

ビニル官能性ポリオルガノシロキサンが、一般式：

$R^2_2 R^3 SiO (R^2_2 SiO) x (R^2_2 R^4 SiO) y Si R^3 R^2_2$  (I)

によって表され、

ここでそれぞれの  $R^2$  は独立して、1から10個の炭素原子を持つアルキル基、脂環式基、もしくはアリール基であり、それぞれの  $R^3$  は独立して、2から10個の炭素原子を持つアルケニル基であり、それぞれの  $R^4$  は  $R^2$  もしくは  $R^3$  のいずれかであり、そして  $x$  と  $y$  の合計は少なくとも約520である、請求項10に記載の組成物。

#### 【請求項16】

請求項1に記載のシリコーン感圧接着剤組成物を調製する方法であって、

(i)  $MQ$ 樹脂を、 $R^6_a SiX_{4-a/2}$  であるキャッピング剤と反応させて部分的に末端キャップされた  $MQ$ 樹脂を提供するステップであって、

ここで  $MQ$ 樹脂が、主に  $R^1_3 SiO_{1/2}$  ("M") 単位と  $SiO_{4/2}$  ("Q") 単位とからなり、それぞれの  $R^1$  が独立して1から6個の炭素原子の一価の炭化水素ラジカルであり、

$MQ$ 樹脂が、 $MQ$ 樹脂の全重量に基づいて約1重量%から約4重量%の、 $Q$ 単位のケイ素原子に結合するヒドロキシルラジカルからなり、そして  $MQ$ 樹脂がヒドリドラジカルを含まず、

ここでそれぞれの  $R^6$  が独立して水素もしくは 1 から 6 個の炭素原子を持つ一価の炭化水素ラジカルであって、少なくとも一つの  $R^6$  が水素であるという条件に従い、そして X が N、C 1 もしくは O であり、a が約 0.5 から約 2.0 であり、

ここで部分的に末端キャップされた MQ 樹脂が、部分的に末端キャップされた MQ 樹脂のヒドロキシルラジカルとヒドリドラジカルの全モルに基づいて、約 70 モル%から約 99 モル%のヒドロキシルラジカルと約 1 モル%から約 30 モル%のヒドリドラジカルとを含む、ステップ、

( i i ) ステップ( i )からの部分的に末端キャップされた MQ 樹脂と一つもしくはそれ以上のビニル官能性ポリオルガノジシロキサンとを有機アミン触媒の存在下で反応させて中間体産物を提供するステップ、ならびに

( i i i ) ステップ( i i )の中間体産物とヒドロシリル化触媒とを接触させ、請求項 1 に記載のシリコーン感圧接着剤組成物を調製するステップ、

を含む、方法。

#### 【請求項 17】

シラノールキャッピング剤が、シラザン、ジシラザン、ポリシラザン、オルガノハイドロジェンクロロシラン、水素官能性シロキサン、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される、請求項 16 に記載の組成物。

#### 【請求項 18】

請求項 1 に記載のシリコーン感圧接着剤組成物を調製する方法であって、

( a ) ( i )  $R^{1_3}SiO_{1/2}$  ("M") 単位と  $SiO_{4/2}$  ("Q") 単位とから主になる MQ 樹脂であって、ここで

それぞれの  $R^1$  が独立して 1 から 6 個の炭素原子を持つ一価の炭化水素ラジカルであり、

ここで、MQ 樹脂が、MQ 樹脂の全重量に基づいて約 1 重量%から約 4 重量%の、Q 単位のケイ素原子に結合するヒドロキシルラジカルからなり、そして MQ 樹脂がヒドリドラジカルを含まない、

MQ 樹脂と

( i i )  $R^6_aSiX_{4-a/2}$  であるキャッピング剤であって、

ここでそれぞれの  $R^6$  が独立して水素もしくは 1 から 6 個の炭素原子を持つ一価の炭化水素ラジカルであって、少なくとも一つの  $R^6$  が水素であるという条件に従い、そして X が N、C 1 もしくは O であり、a が約 0.5 から約 2.0 である、キャッピング剤と

( i i i ) 一つもしくはそれ以上のビニル官能性ポリオルガノシロキサンとを含む混合物を反応させて中間体産物を提供するステップ、ならびに

( b ) ステップ( a )の中間体産物とヒドロシリル化触媒とを接触させ、請求項 1 に記載のシリコーン感圧接着剤組成物を調製するステップ、

を含む方法。

#### 【請求項 19】

ステップ( a )の反応混合物が、任意選択でカップリング剤を含み、

MQ 樹脂が約 48.0 重量%から約 75.8 重量%の量で存在し、

シラノールキャッピング剤が約 0.56 重量%から約 1.81 重量%の量で存在し、

カップリング剤が約 0.0 重量%から約 0.08 重量%の量で存在し、

ビニル官能性ポリオルガノシロキサンが約 22.3 重量%から約 51.1 重量%の量で存在し、

ここでこれらの重量パーセントは MQ 樹脂、シラノールキャッピング剤、カップリング剤およびビニル官能性ポリオルガノシロキサンの全重量に基づくものである、請求項 18 に記載の方法。

#### 【請求項 20】

請求項 1 に記載の組成物の硬化物。

#### 【請求項 21】

請求項 1 に記載の組成物を接着させた基体を含む物品。

#### 【請求項 22】

前記組成物が硬化している、請求項 2 1 に記載の物品。

【請求項 2 3】

前記基体がガラス、金属、多孔質、革、布、有機ポリマー材料、シリコーンエラストマー、シリコーン樹脂、塗装面およびケイ酸質物質からなる群より選択される、請求項 2 1 に記載の物品。

【請求項 2 4】

有機ポリマー材料がフルオロカーボンポリマー、ポリスチレン、ポリアミド、ポリイミド、ポリエステルおよびアクリルポリマーからなる群より選択される、請求項 2 3 に記載の物品。

【請求項 2 5】

物品が、感圧テープ、ラベル、転写フィルムおよび電子デバイスからなる群より選択される、請求項 2 1 に記載の物品。

【請求項 2 6】

物品が、携帯電話、G P S ナビゲーションディスプレイ、テレビディスプレイおよび電子部品からなる群より選択される電子デバイスである、請求項 2 2 に記載の物品。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 4】

付加硬化型シリコーン P S A は、当分野において公知であり、例えば、米国特許第 3 , 9 8 3 , 2 9 8 号、米国特許第 4 , 7 7 4 , 2 9 7 号、米国特許第 4 , 9 8 8 , 7 7 9 号、米国特許第 5 , 1 6 9 , 7 2 7 号、米国特許第 5 , 2 4 8 , 7 3 9 号、米国特許第 6 , 4 6 6 , 5 3 2 号、米国特許第 5 , 5 7 6 , 1 1 0 号、日本特許第 8 2 0 9 1 0 4 号に記載される。しかしながら、これらの従来技術の付加硬化型 P S A は、粘着性、引きはがし粘着力および凝集力における所望の接着性能を達成するために多成分混合物によっている。このように、必要な架橋は予測不能であり、硬化した際の P S A の接着性能が不安定である。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 5】

従来技術の付加硬化型シリコーン P S A に関する問題を解決するための試みがなされてきた。例えば、G r i s w o l d らの米国特許公開 2 0 0 5 0 1 1 3 5 1 3 は、自己架橋性成分とヒドロシリル化触媒とを含む付加硬化型シリコーン P S A 組成物を開示する。G r i s w o l d の出願によると、自己架橋性成分は(1)芳香族可溶性シリコーン樹脂もしくは樹脂状コポリマーとアルケニル含有ポリジオルガノシロキサンとを縮合し、そして(2)縮合反応産物とシリル化剤とを反応させて縮合反応から残るシラノール基をキャップしてケイ素結合水素基を形成することによって作製でき、例として 1 , 1 , 3 , 3 - テトラメチルジシラザンを用いる。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 4】

樹脂(A)(i)はまた、樹脂のヒドロキシルラジカルとヒドリドラジカルの全モルに

基づいて、約 70 モル% から約 99 モル% の、有利には約 75 モル% から約 99 モル% のヒドロキシルラジカルと、約 1 モル% から約 30 モル% の、有利には約 5 モル% から約 25 モル% のヒドリドラジカルを含む。ヒドロキシルラジカルは Q 単位のケイ素原子へと直接的に結合する。ヒドリドラジカルは - O Si H R<sup>5</sup><sub>2</sub> ラジカルを介して Q 単位のケイ素原子へと結合し、それぞれの R<sup>5</sup> が 独立して 1 から 6 個の炭素原子の一価の炭化水素ラジカルである。

#### 【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

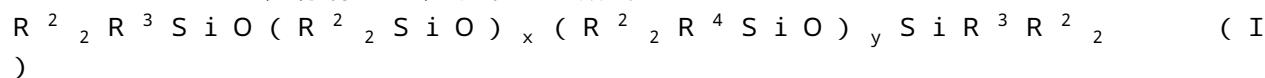
【訂正対象項目名】0018

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

#### 【0018】

成分 (A) (i i) はアルケニル含有ポリジオルガノシロキサンであるか、またはアルケニル含有ポリジオルガノシロキサンの混合物である。好適なアルケニル含有ポリジオルガノシロキサンは、有利にも、以下の一般式



のポリジオルガノシロキサンであり、ここでそれぞれの R<sup>2</sup> は独立して、メチル、エチル、およびプロピルのような 1 から約 10 個の炭素原子を持つアルキル基；シクロヘキサンルのような脂環式基、またはフェニルのようなアリール基であり、R<sup>3</sup> は、ヒドロキシル、またはビニル、アリル、プロペニル、ブテニル、ペンテニル、ヘキセニルなどのような - アルケニルを含む 1 から 10 個の炭素原子を持つアルケニル基もしくはアルキロキシアルケニル基であり、R<sup>4</sup> は R<sup>2</sup>、または、ビニル、アリル、プロペニル、ブテニル、ペンテニル、ヘキセニルなどのような - アルケニルを含む 1 から 10 個の炭素原子を持つアルケニル基のいずれかである。痕跡の単位の R<sup>2</sup><sub>3</sub> SiO<sub>1 / 2</sub> 単位、 R<sup>2</sup> SiO<sub>3 / 2</sub> 单位および SiO<sub>4 / 2</sub> 单位も許容し得る。x と y の合計は少なくとも約 520 であり、25 で約 3000 センチポアの粘度をもたらし、そして有利にも 25 で少なくとも 10,000 センチポアの粘度をもたらす。有利にも、ポリジオルガノシロキサン (A) (i i) は、150 の大気圧において非揮発性である痕跡量の大環状ポリジオルガノシロキサンの例外を除いて、環状物質を実質的に含まない。さらに、ポリジオルガノシロキサン (A) (i i) は、式 (I) のホモポリマーもしくはコポリマーまたはそれらの混合物であり得る。例示的なアルケニル - 含有ポリジオルガノシロキサン (A) (i i) は、アルケニル含有ポリジメチルシロキサン、アルケニル含有ポリ(ジメチル - コ - ジメチルフェニル)シロキサン、およびアルケニル含有ポリ(ジメチル - コ - ジフェニル)シロキサンを含むがそれらに限定されない。有利には、アルケニル基はビニルである。

#### 【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0024

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

#### 【0024】

任意選択で、接着剤組成物の延長された浴寿命の接着剤コート粘度を拡張するためにヒドロシリル化阻害剤を添加し得る。白金属基触媒の阻害剤は、有機シリコーンの分野において公知である。例はさまざまな種類のそのような金属触媒阻害剤を含み、それは、米国特許第 4,337,332 号のエチレンのもしくは芳香族の不飽和アミド、米国特許第 3,445,420 号、米国特許第 4,347,346 号および米国特許第 5,506,289 号のアセチレン化合物、米国特許第 3,882,083 号のエチレン性不飽和イソシアナート、米国特許第 3,989,667 号のオレフィン性シロキサン、米国特許第 4,256,870 号、米国特許 4,476,166 号および米国特許第 4,562,096 号の不飽和炭化水素ジエステル、米国特許第 4,465,818 号および米国特許第 4

, 4 7 2 , 5 6 3 号の共役エン - イン、米国特許第 4 , 0 6 1 , 6 0 9 号のヒドロペルオキシドのような他の有機化合物、米国特許第 3 , 4 1 8 , 7 3 1 号のケトン、米国特許第 3 , 3 4 4 , 1 1 1 号のスルホキシド、アミン、ホスフィン、ホスファイト、ニトリル、米国特許第 4 , 0 4 2 , 9 7 7 号のジアジリジン、米国特許第 4 , 5 3 3 , 5 7 5 号のハーフエステルおよびハーフアミド、ならびに米国特許第 3 , 4 6 1 , 1 8 5 号のさまざまな塩のような不飽和の有機化合物を含む。本発明の組成物は、これらの種類の阻害剤の任意のものからの阻害剤を含み得ると考えられる。

## 【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0 0 3 4】

キャッピング剤は上述される。それは、 $R^6_a SiX_4-a/2$  であり、ここでそれぞれの  $R^6$  が独立して水素もしくは 1 から 6 個の炭素原子を持つ一価の炭化水素ラジカルであって、少なくとも一つの  $R^6$  が水素であるという条件に従い、そして X が N、C 1 もしくは O であり、a が約 0.5 から約 2.0 である。部分的に末端キャップされた MQ 樹脂およびビニル官能性ポリオルガノシロキサンは上述の成分 (A) (i) および (A) (i') と同一である。

## 【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0 0 4 0】

一実施態様において、本発明は本発明の感圧接着剤組成物をその上に接着させて持つ基体を含む物品を提供する。例示的な物品は、感圧テープ、ラベル、転写フィルム、携帯電話、GPS ナビゲーションおよびテレビディスプレイもしくは電子部品のような電子デバイスを含むがそれらに限定されない。

## 【誤訳訂正 9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0 0 4 3】

計算

100% 固形分における樹脂 OH の開始モル = [ ( 100% 固形分における樹脂のグラム ) × { ( OH の % ) ÷ ( 100 × 1 モル OH ) } ] ÷ 17 グラム OH

ヒドリドの H のモル = { ( 100% 固形分における組成物のグラム ) × ( 組成物中の樹脂のグラム ) × ( 100% 固形分における H の ppm ) × ( 1 モル H ) } ÷ { ( 樹脂のグラム + 組成物のグラムポリマー ) 1000000 rpm × グラム }

樹脂の残留 OH のモル = ( 樹脂の OH の開始モル ) - ( ヒドリドの H のモル )

OH とヒドリドのモル % は OH とヒドリドの全モルに基づいて計算される。

$SiH/V_i$  の比は、接着剤組成物中の  $SiH$  官能基の全モルを接着剤組成物の  $V_i$  官能基の全モルによって割ることによって計算されるモル比である。

## 【誤訳訂正 10】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0054】

25.0グラムのサンプルが取り出され、トルエン溶液中の白金Ashby触媒として1000ppmを用いて固体分を基にして55ppmの白金が添加され、そして25マイクロメートルのポリイミドフィルム上に、乾燥フィルム厚さ(dft)として42マイクロメートルでバーコートされた。感圧接着剤の性能は824g/インチ引きはがし接着であり、そしてShear Adhesion Failure Temperature(SAFT)は、1インチ×1インチのオーバーラップで1Kg重量で345であった。このコートされたフィルムは1ヶ月後に再試験され、引きはがし接着は908g/インチであった。

## 【誤訳訂正11】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0055

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0055】

比較例1

実施例2における、1,1,3,3-テトラメチルジシラザンの代わりに1グラムの水酸化アンモニウムを用いたことを除いて、実施例2が繰り返された。調製された組成物は硬化せず、試験されると凝集破壊した。2重量%の過酸化ベンゾイルが固体分原料に添加されると、組成物は硬化して、302のSAFTをもたらした。

## 【誤訳訂正12】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0063

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0063】

実施例6

1リットルの反応器に、100.0グラムのM<sup>V</sup>iD<sup>V</sup>i<sub>2</sub>D<sub>4</sub><sub>2</sub>0<sub>0</sub>Dフェニル<sub>2</sub><sub>5</sub>M<sup>V</sup>i(100重量%のポリオルガノシロキサンポリマー)、220.0グラムの10.4cstks60%トルエン溶液のMQ樹脂(M/Q=0.7、2.70重量%OH(0.2096モルのOH))、および100.0グラムのトルエンが充填された。樹脂対ポリマーの比は1.32であった。混合物は還流乾燥され、13.0グラムの20重量%トルエン溶液の1,1,3,3-テトラメチルジシラザンが0.18グラムのビス-(ジイソプロピルアミノ)ジメチルシランと共にゆっくりと添加された。混合物は室温で2時間攪拌され、1時間還流された。酸として0~10ppmのリン酸によって過剰の塩基が中和され、そして過剰のトルエンが除去され、生じた組成物が室温へと冷却された。25

で接着剤組成物の粘度は31,700cpsであり、59.8%固体分であり、100%固体分を基にして73ppmヒドリドであった。上述の計算法を用いると、シラノール-ケイ素ヒドリド樹脂は、還流前に0.2000モルのOH(95.4モル%)と0.0091モルのH(4.6モル%H)とを持つ。SiH/Vi比は18.6であった。

## 【誤訳訂正13】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0079

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0079】

この実施例は、残留シラノール基が医薬品/ビタミンのような添加物と負の相互作用をするような用途に好適な組成物を作製する、感圧接着剤の調製の後の残留シラノール基末端キャップについて例示する。

## 【誤訳訂正14】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0085

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0085】

25.0グラムのサンプルが取り出され、固体分を基にして25 ppmの白金が添加され、そして25マイクロメートルポリイミドフィルム上に、乾燥フィルム厚さ(dft)として95マイクロメートルでバーコートされ、135℃で5分間硬化された。引きはがし接着は3831g/インチであり、100g/cm<sup>2</sup>1秒 dwell のPolyken Probe Tackが1539g/cm<sup>2</sup>であった。

【誤訳訂正15】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0125

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0125】

実施例29

3リットルの反応器に、117.5グラムのM<sup>v</sup>iD<sup>v</sup>i<sub>7</sub>D<sub>3,2,0,0</sub>M<sup>v</sup>i(28重量%のポリオルガノシロキサンポリマー)、217.8グラムのM<sup>v</sup>iD<sub>8,0,0</sub>M<sup>v</sup>i(52.0重量%のポリオルガノシロキサンポリマー)、83.9グラムのM<sup>v</sup>i<sub>3</sub>D<sub>9,5</sub>T<sub>2,5</sub>(20.0重量%のポリオルガノシロキサンポリマー)、838.0グラムの10.4csts60%トルエン溶液のMQ樹脂(M/Q=0.7、2.70重量%OH(0.7986モルのOH))、および559.0グラムの6.6csts60%トルエン溶液のMQ樹脂(M/Q=1.1、2.50重量%OH(0.4932モルのOH))が充填された。樹脂混合物のOHのモルは1.2918であった。樹脂対ポリマーの比は2.0であった。混合物は還流乾燥され、16.6グラムの1,1,3,3-テトラメチルジシラザンが0.40グラムのビス(ジイソプロピルアミノ)ジメチルシランと共にゆっくりと添加され、室温で2時間攪拌された。混合物は1時間還流された。酸として0~10ppmのリン酸によって過剰の塩基が中和され、そして過剰のトルエンが除去され、生じた組成物が室温へと冷却された。25℃で接着剤組成物の粘度は3090cpsであり、76.9%固体分であり、100%固体分を基にして145ppmヒドリドであった。SiH/Vi分析は、シラノール官能性を持つシルセスキオキサン樹脂(MQ樹脂)の1,1,3,3-テトラメチルジシラザンを用いるin-situ部分的キャップ化が起きたことを確認した。上述の計算法を用いると、シラノール-ケイ素ヒドリド樹脂は、還流前に1.1703モルのOH(90.6モル%)と0.1215モルのH(9.4モル%H)とを持つ。SiH/Vi比は4.1であった。

【誤訳訂正16】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0135

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0135】

実施例31

1リットルフラスコに対し、400.0グラムの実施例28の組成物、12.4グラムのCH<sub>2</sub>CHOOC(C<sub>H</sub><sub>3</sub>)R'R''〔式中R'およびR''は7個の炭素原子の分岐アルキル基であり、Ve<sub>o</sub>V<sub>a</sub>10(Momentive Specialty Chemicals)として市販されるバーサチック酸ビニルエステルである〕、14.8グラムのMD<sub>1,7</sub>D<sup>H</sup><sub>4</sub>Mが添加された。混合物は揮発性物質を除去するために窒素置換しながら160℃まで熱された。最終的な樹脂対ポリマーの比は1.93であった。室温まで冷却された後、溶媒を含まない組成物の粘度は151,000cpsと測定された。

【誤訳訂正 17】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0138

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0138】

25.0グラムのサンプルが取り出され、固形分を基にして5ppmの白金が添加され、そして25マイクロメートルポリイミドフィルム上に、乾燥フィルム厚さ(dft)として97マイクロメートルでバーコートされ、150で3分間硬化された。引きはがし接着は1093g/インチであった。